

平成29年度第2回野菜需給・価格情報委員会消費分科会の意見概要

1 日時

平成29年11月7日（火） 13:30～15:30

2 場所

独立行政法人農畜産業振興機構 南館1階会議室

3 概要

事務局から「最近の消費・輸入動向等について」（資料1）を説明の後、秋冬野菜の需要見通しについて、意見交換。その結果を踏まえて小林座長が取りまとめ、各委員の了承を得た上で、11月16日開催の平成29年度第2回野菜需給・価格情報委員会に報告することとなった。

平成29年産秋冬野菜の需要見通しの概要及び最近の消費状況等に関する委員からの意見の概要は以下のとおり。

○ 秋冬野菜の今後（11～3月）の需要見通しの概要

(1) 主要6品目

① キャベツ

- 炒め物等の加熱調理やサラダ等の安定した需要に加え、簡便ニーズを受けたカットキャベツの需要も家計消費用、業務用ともに堅調と考えられることから、需要の増加を見込む。
- なお、10月の長雨・日照不足、台風の影響が年明け以降、顕在化することが懸念され、その場合には、価格上昇による買い控えも想定される。

② だいこん

- おでんをはじめとする鍋物需要も増加すると考えられることから、需要の増加を見込む。
- なお、10月の長雨・日照不足、台風の影響が顕在化して価格が上昇した場合には、買い控えも懸念される。

③ たまねぎ

- 炒め物等の加熱調理用をはじめ、幅広く使える常備野菜であることを踏まえ、需要は平年並を見込む。

④ にんじん

- 炒め物等の加熱調理用をはじめ、幅広く使える常備野菜であることを踏まえ、需要は平年並を見込む。
- なお、10月の長雨・日照不足、台風の影響が顕在化して価格が上昇した場合には、買い控えも懸念される。

⑤ はくさい

- 鍋物需要も増加すると考えられることから、需要の増加を見込む。
- なお、10月の長雨・日照不足、台風の影響が年明け以降、顕在化することが懸念される場合には、価格上昇による買い控えも想定される。

⑥ レタス

- サラダ及びカット野菜の需要が安定していると考えられることから、需要は平年並を見込む。

(2) その他品目

① きゅうり

- サラダ需要が安定していると考えられることから、需要は平年並を見込む。

② トマト

- 大玉トマトの需要は減少しているものの、ミニトマトの需要が堅調であることや、ホットメニューでの消費も考えられることから、需要は平年並を見込む。

③ ねぎ

- 鍋物需要も増加すると見込まれ、また、薬味用のカットねぎが年々伸長していることや、各産地の特徴ある品種が増えて売場面積が増えていることも踏まえ、需要の増加を見込む。

○ 最近の消費状況等

- (1) 9月下旬以降、キャベツ、レタス、にんじん等を始めとして、主要野菜の価格が平年を大幅に下回って推移していますが、消費への影響はでていますか。
- 価格は買いやすい価格で推移しており、消費量は平年より増加している。
 - 過去経験無い相場安だが、消費者は値頃感こそ感じているが、安いとは思っていない。感覚的に「いつでも買える」売価になったことで、特売等量販店の仕掛けは訴求力薄れ苦戦。
 - 消費者は、野菜の価格が安くなければ買わない姿勢を強めている中で、昨年は台風、長雨の影響で価格が高騰したことに比べて、今年は買いやすい価格で推移した。
 - 10月上旬・中旬の価格下落により消費は増加。
 今後は、秋雨前線及び台風の来襲により昨年程の高騰は無いにしても、一部の施設園芸野菜に影響はでる。
 - 9月の野菜の販売は大きく苦戦している。
 - 9月下旬からの長雨、台風による多雨により果菜類、レタス類、葉物に大きな影響が発生している現状から、九州産地へ移行してからの安定に期待する現状です。
 - 消費全体の動きは良くないと思います。
- (2) 今秋の気温は平年を下回る日が多いですが、鍋商材等の消費への影響はでていますか。
- 気温の低下した10月中旬以降から消費量は増加。
 - 過去2年暖冬傾向だったこともあり、今年の鍋商材はいまのところ好調に推移。
 11月以降本格化するタイミングは期待が持てる。
 - 価格が買いやすいこともあったため、売れ行きは昨年に比べて伸びた。
 10月の長雨、台風の影響で高値となった場合には、消費者の買い控えが懸念。
 - ここの所の長雨の影響で長葱の被害が心配される。低温とともに需要は増加するが価格は高騰。
 - 鍋需要は11月以降に高まる気配。
 - 需要期への入りが早くなり、10月下旬からの需要増からも白菜、葱類中心に堅調な動きを期待しております。
- (3) 昨年、一昨年は、台風の襲来か秋雨前線の停滞により、主要野菜の価格が高騰しました。一方、今年は豊作基調により主要野菜の価格が低迷する中で、主要野菜の調達に関して今後どのような対応をお考えですか。
- 契約産地からの仕入比率を高めていく。
 - 仕入価格については、ある程度の弾力性を持った契約をする必要がある。
 - 基本的な調達方法は変わらず。但し天候不順続く中、予約相対の期間・量は今後見直していく計画。
 - 台風の襲来及び秋雨前線の停滞により、果菜類、レタス、ほうれんそう等が高騰している。今後も高値が継続すると予測される中、従前どおりの方針を踏まえ、産地と契約を結ぶ産直による品揃えの充実を考えている。
 - 今後も豊作基調は変わらないが、9月、10月上旬の様な価格下落にはならない。
 - 台風で被害にあった産地や、農産物の救済策を検討。可能な限り傷ついたものなどもお届けできるよう組合員に情報提供している。

→ 長雨・曇天・台風と続けての気象変動から長期化する被害が、果菜類、葱類、葉物に発生している現状から、特に11月対策が必要と考えます。

(4) 高齢化の進展、単身世帯や共働き世帯の増加等を背景として、今後どのような商材や新商品の開発、製造技術の革新等が必要とお考えですか。

→ 栄養価の高い品種

→ 加工がしやすい品種

→ 素材→カットサラダ等簡便→惣菜と、最終的には惣菜比率増に向かうのでは。

→ 和食系の簡便ニーズを踏まえた取組を行う。

→ カット野菜、小分け（少量パック）を考えている。

→ 少人数家庭の影響で、土物、大型野菜を1/2にカットしたものの伸びが今後も続く。

→ 新料理セット工場が9月に稼働。10月から販売開始、注文が多いため製造が追いつかない状況。

→ お惣菜需要の伸びが先日のコンビニ業界数値に出ていましたが、今後の世帯構成からも少量、多品目での食事をイメージした時に、完成度の高い商品を少量求める流れは拡大していくと判断しています。

→ オーブンを使用した調理が増加する可能性であること。また、惣菜の需要は増加する可能性があり注目。

(5) 今後も加工・業務用野菜の需要が拡大すると見込まれますが、今後5年後を見据えて、消費が増加する品目、逆に減少が見込まれる品目を教えて下さい。

→ 需要の増加・・・トマト、ブロッコリー

→ 需要が減少・・・アスパラガス

→ 大きな切り口として「手間のかかる商材」はより簡便に、「手間のかからない商材」は手作りにと分けがはっきりしていくのではないかと。

手間のかかる商材＝煮物・炒め物→ごぼう・里芋等灰汁の出る土物根菜類

手間のかからない商材＝サラダ・レンチン→レタス・ミニトマト・Bリーフ等

→ 需要が増えるものは、サラダ商材。特に味や糖度にこだわったトマト、ミディトマトなどや、ブロッコリー、スナップエンドウなどの豆類。

→ 減少が見込まれるものは、根菜類、さつまいも、さといも、ゴボウなどは苦戦する。若年層が料理方法をあまり知らなくなっている。

→ 現在の需要がある品目は、5年後も大きく変わることはないが、需要がある品目について安定的に供給できるようにすることが必要。具体的には、高齢化が進む産地の現状を踏まえて、キャベツ、だいこん、はくさいの収穫機械の導入は必要。

(6) 今秋冬の注目すべき野菜はどのようなものがありますか。前記「1. 野菜の今後（11～3月）の需要見通し」に係る品目以外の野菜でお願いします。

→ 特になし

→ クリスマスを最大ピークとしたマッシュルーム・ベビーリーフ

→ サラダ提案でケール、ロメインレタス。

→ 植物工場で生産したレタス、ミニトマトなど。

→ 九州の絹さや、スナップエンドウ、いんげんなどの豆類。

- ブロッコリー。
- 洗淨済みのベビーリーフ。（現在は洗淨後の脱水が技術的に難しく導入に至っていない。）